

## 第2章 2. 世界の自然災害

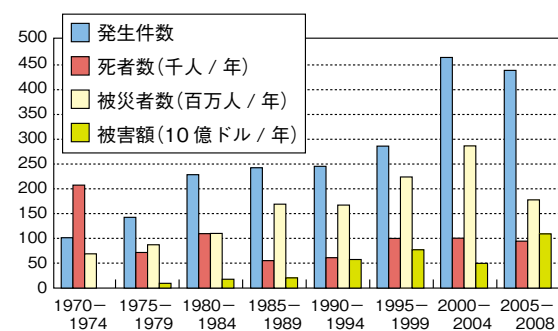
世界各地で地震や気象災害が発生し、自然の猛威だけでなく、防災対策が不十分であるなどの問題も指摘されています。災害からの復興対策や防災対策には幅広い視野が求められています。被害を拡大させた背景には、どのようなことがあるのでしょうか。



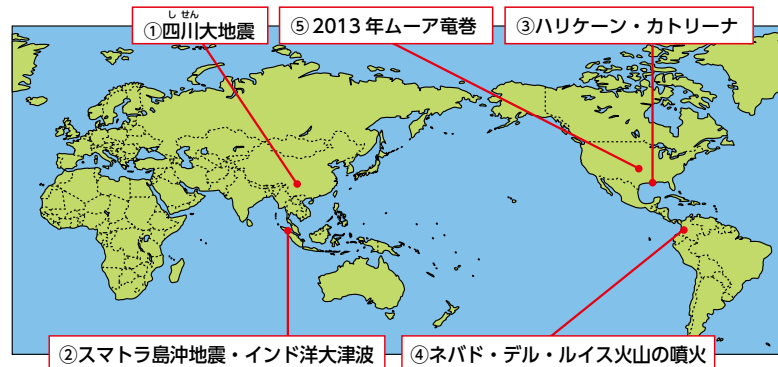
### 世界各地で発生した自然災害

これまで、世界各地で発生した主な自然災害から、その被害を拡大させた背景について知っておきましょう。

世界の自然災害の状況



世界で起こった自然災害



#### ① 地震

##### 四川大地震 (2008 (平成20)年 中国)

中国内陸部の四川省少数民族自治州を震源とするマグニチュード8.0の地震。この地震で家屋や学校の倒壊、道路や橋、上下水道の破損など甚大な被害がありました。犠牲者は約87,000人。

家屋や学校などの倒壊の原因として、耐震化がされていない建物が多かったことがあげられます。



地震による被害状況

#### ② 津波

##### スマトラ島沖地震・インド洋大津波 (2004 (平成16)年 インドネシアほか)

スマトラ島アチェ州沖で発生したマグニチュード9.1の地震。大津波が発生し、インドネシアだけでなく、インド洋沿岸や東アフリカにも被害がありました。死者は27万人以上。被害総額は68億ドル。

インド洋の各国では津波の経験がほとんどなく、津波についての知識がなかったことが被害を拡大させました。



海岸に押し寄せる津波

#### ③ 水害

##### ハリケーン・カトリーナ (2005 (平成17)年 アメリカ)

アメリカ南東部を襲った大型ハリケーン・カトリーナは、ルイジアナ州などの4州にまたがる広い範囲に被害をもたらしました。中でもニューオーリンズ市では堤防が決壊して市の約8割が水没するという深刻な被害がありました。100万人規模の被災者を出し、死者は1,800人以上。

市の約7割が海拔0m以下であったことと、高潮が堤防の高さを大幅に上回ったことが原因と考えられています。



高潮で水没した住宅街

#### ④ 火山

##### ネバド・デル・ルイス火山の噴火 (1985 (昭和60)年 コロンビア)

この噴火では、火砕流により雪や氷が溶け、大規模な融雪型火山泥流が発生し、麓のアルメロ市を直撃しました。人口28,700人の約4分の3に当たる21,000人が死亡(これを含め噴火による被害は死者23,000人、負傷者5,000人)。以前から噴火に関する偽情報が多く流れていたこと、噴火の一時沈静化によりハザードマップが顧みられなかったこと、市当局が、祭り期間中の混乱を恐れて避難指示を出さなかったことが被害を大きくしました。



噴火したネバド・デル・ルイス火山

#### ⑤ 竜巻

##### 2013年ムーア竜巻 (2013 (平成25)年 アメリカ)

オクラホマ州で発生した竜巻は約50分間に27kmを移動、最大で2.1kmの幅に達し、最大瞬間風速89~94mという史上最大級のもので、5万人都市のムーア市を直撃しました。死者24人、負傷者240人、3万人以上が被災し、2,400棟の建物が損壊、被害総額は20億ドル。

竜巻警報が出ていたにもかかわらず、犠牲者などが出た原因は、避難場所の不足にあったと考えられています。



ムーア市を通過する竜巻

## 自然災害への対策は、国際社会の重要課題

### 仙台で開かれた第3回国連防災世界会議

国際的な防災戦略について議論する国連防災世界会議の第3回が2015(平成27)年3月、仙台市で開かれ、187か国の代表者や国連機関、NGOなど延べ15万人が参加、会議の最終日には、国際社会の防災に対する今後15年の行動指針となる「仙台防災枠組2015-2030」が採択されました。

この中で、国際社会がとるべき優先行動として、1) 災害リスクの理解、2) 災害リスク管理のための災害リスクガバナンス、3) 強靱化に向けた防災への投資、4) 効果的な応急対応に向けた準備の強化と「よりよい復興(Build Back Better)」の4つの柱が掲げられています。

県内、国内、世界各国から、高校生も集い、東日本大震災時の教訓や、これまでの災害の教訓を生かした取り組みが共有されました。



高校生による発表

#### 考えてみよう



世界各地の災害で、被害が出た要因を調べ、どのような対策が被害の減少につながるかを考えてみましょう。